

# 令和4年度 第4回学校運営協議会議事録

静岡北特別支援学校 南の丘分校

1 日時 令和5年2月14日(火) 午前10時から正午まで

2 参加者

学校運営協議会委員 7人

相羽 裕介 様	静岡市役所駿河区役所地域総務課地域防災係 係長	防災関係
石田 幸彦 様	富士見学区自治会連合会会長 登呂二丁目自治会長	地域関係
鈴木 有香 様	南の丘分校PTA会長	保護者代表
炭田 直哉 様	独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援 機構 静岡支部静岡職業能力開発促進センター所長	就労・障害者 雇用関係
田代 信一 様	静岡市駿河区保護司 (防犯予防担当・防犯予防副会長)	防犯関係
野村 和代 様 (令和4年度 コーディネーター)	常葉大学教育学部講師	障害福祉・指導 関係
若狭 秀和 様	浅野・若狭法律事務所	司法・障害福祉 関係

南の丘分校：校長、事務長、副校長、部主事、進路指導主事、教務課長

3 内容

## (1) 校長挨拶

- ・今年度の学校運営協議会については、委員の方々に本校の良さを評価していただくとともに、よりよい教育活動の展開のための御意見や、委員として協力できることの提案をいただき、感謝している。今年度の実践を受け、委員の方々からいただいた意見をまとめ、来年度の教育活動につなげていきたい。
- ・来年度は、南の丘分校が開校して20年目の年となる。節目となる年に、これまで行ってきた「働くひと」を育てるための指導、支援を継続していくとともに、共生共育の更なる充実を図っていきたい。

## (2) 令和4年度学校自己評価報告

### ① 活動報告

『令和4年度 学校経営計画書』を基に、本年度の取組に対する成果について報告した。

### ② 御意見・質疑応答

○「専門性」に対して

- ・業務のスリム化については行事前や突発的な生徒指導案件があり、定時で退勤することが難しいことは理解できる。全体で業務のスリム化について成果を共有していくことで、子どもの支援につなげてほしい。

- ・セクハラについては、1件でも生じると外部としては不信感を持たざるを得なくなる。先生方を守るという意味でも手続きを踏み、第三者を入れて検証していくなどの仕組みづくりが今後必要になってくるのではないかと。

#### ○「安全・安心」に対して

- ・防災に関して、市としては自治会や学校へ出前講座をすることもある。そのときに伝えることは、「若い世代にはとにかく生き残ってほしい」ということである。生き残ることにより、避難所運営等の他を助けることができるため。学校として取り組む防災学習を今後も継続して行ってほしい。
- ・地域での防災訓練は、コロナウイルス感染症の関係でここ2年縮小した形での実施となっているが、生徒の居住地で実施される防災訓練に今後は、参加してほしい。また学校として、防災に関わる地域の取組等に参加してみてもどうか。地域とのつながりは、教育的な意義が大いにあると考える。

#### ○進路について

- ・進路実現に向けて、大学、短大、専門学校等を選択する生徒もいるのか。  
→特別支援学校の中でも、視覚・聴覚・肢体不自由・病弱の特別支援学校では、大学等を選択する生徒もいる。本校は知的障害のある生徒が通う学校で、多くは就職、職業訓練校等への進路となる。
- ・求人への取り組みについて  
→高等学校には、求人票が届くが、特別支援学校には、求人がない。職場実習を通して、企業に評価をいただき、企業内での検討を経て、指定校求人という形で求人が届く。送られてきた求人票を見て、企業に応募し、面接を経て合格の場合に内定をいただけるという流れである。
- ・学校と中小企業との連携の仕方について  
→学校は、中小企業同友会と連携をしており、情報交換や学習会を行っている。障害者雇用に関して、企業の持っている課題点について意見交換を行い、障害のある方々が働きやすい環境を作ることを目指している。同友会だけでなく、信用金庫とも情報交換をしている。

### (3) 不祥事根絶取組について

本校では、お互いのよさを認めるなごやかな職場づくりに重点を置いてきた。

<御意見等>

- ・不祥事は、教育活動への信用を失墜するものであるという意識をもってほしい。
- ・不祥事根絶はもちろんしなくてはいけないものであるが、多種多様な原因がある。予防の余地のある不祥事には職場としてアプローチできても、個人の感覚や価値観の違い又は完全なプライベートのときに起きる不祥事には、予防策をとることが難しい。原因の種類分けをして対策ができるものから対応して行ってはどうか。

### (4) 令和5年度学校経営計画(案)について

<御意見等>

- ・「安心・安全」の「人権を尊重した適切な指導・支援」を狙うのであれば、90%でなく100%とするべきなのでは。
- ・来年度、新たに自立活動を時間の指導として立ち上げるとのこと。これまでの教育活動で積み上げてきたものと個に特化した指導とをどのようにつなげていくのか、

説明できることが大切。

- ・新しいことを始めることももちろん大切だが、学校教育目標の達成のための取組と、業務のスリム化を両立させていく工夫が求められる。
- ・取組を達成するための数値目標を設定するときには、数字が先走らないようにすること。大切なのは、数値でなく目標であることを押さえない。
- ・学校の様子をホームページ等で発信する取組は、継続して行ってほしい。

#### (5) まとめ

- ・来年度の学校経営計画(案)に対して、数値目標の在り方、不祥事根絶の原因の分析等、新しい視点からの御意見をいただいた。来年度の学校経営計画につなげ、「計画から評価に至るまでに何をしたのか」を大切にしていきたい。

